



■発行 地域活性化団体 よかつつらみさくぼ（管理受託者）
 浜松市水窪支所 生涯学習グループ・水窪図書館
 ■問合せ/☎（053）982-0013

今月のできごと

浜松市博物館で水窪の「藤布」を展示中！

浜松市博物館ではテーマ展「糸を紡ぐ布を織る」を開催しています。9月5日の学芸員講座では、藤や綿、蚕の糸づくりや、糸巻き、機織りの道具の解説が行われました。水窪の田楽衣装についても別当で聞き取った話や実際に使われていた「水干」の写真が紹介されました。

展示では素材ごとの技法や工夫が示され、水窪で昭和期まで古代布の製作技術が受け継がれていたことにも触れています。地域に残る貴重な衣文化を知ることができます。



【開催期間】 令和8年8月1日(土)～10月4日(日)
 【会場】 浜松市博物館 特別展示室
 【開館時間】 午前9時～午後5時
 【休館日】 月曜日(9月21日は開館)、9月24日
 【観覧料】 大人 310円／高校生 150円



夏休み子ども講座への参加ありがとうございました



7月30日(金)

クラフトバンド講座

クラフトバンドを使ってコースターを作りました。廃材を活用したため、様々な色を組み合わせそれぞれ個性的な作品ができました。



8月6日(金)

草木染め講座

藍染め体験を実施しました。子どもたちは布に細工をして染め上がった布には個性豊かな模様が広がりました。手を青くして「きれいにできたよ」と嬉しそうな姿が印象的でした。



8月19日(水)

らくやき講座

「らくやき講座」を開催しました。専用ペンでお皿やマグに思い思いの絵を描き、オーブンで焼き上げて完成。創作の楽しさを味わうひとときとなりました。



8月24日(月)

科学工作講座

静岡大学科学工作公認サークル「キッズサイエンスカフェ」による科学工作教室を開催しました。アクリル板と光の屈折を利用し、描いた絵を平面に浮かび上がらせる装置づくりに挑戦しました。大学生と一緒に光のひみつを探る楽しい体験となりました。



今月のよもやま話

水窪の山々を縫うように走っていた森林鉄道。そこで働いた 8 機の機関車は、地域の人々から「エンジン」と呼ばれ、日々の暮らしに寄り添ってきました。実はこの他に雑貨運搬に活躍した 3.5 トンの「C16 型」機関車もありました。この機関車は現在、高知県で観光用に復元された魚梁瀬(やなせ)森林鉄道の一員として、当時の姿を伝える貴重な存在として大切に保管されています。水窪の森林鉄道を走った機関車。その物語は今も息づいています。

■文化会館からのお知らせ

水窪文化祭 出演者・出展者募集！

水窪文化祭 出演・出展者募集！！

水窪文化祭は、まちの皆さんの文化活動発表の場です。

皆さんの普段とは、ひと味違う姿や一面を楽しみにしている方も多いのではないのでしょうか。

この発表の場に、今年は「出演者・出展者」として参加してみませんか。

日時 【芸能発表】10月31日(土) 午後1時～4時
【作品展示】10月31日(土)～11月3日(火・祝)

会場 水窪文化会館 【芸能発表】ホール
【作品展示】視聴覚室

対象 個人・グループどちらでも参加できます。



内容 【芸能発表】歌唱、楽器演奏、踊り、ダンス、詩吟、手品、寸劇など
【作品展示】写真、絵画、書、手芸、花、盆栽、木工工作など

申込 電話または直接、水窪文化会館までご連絡ください。(締め切り 9/30(水))

主催 よかつらみさくぼ(水窪文化会館内)

問合せ ☎053-982-0013

星空観望会のお知らせ

天体観測ドームで秋の星座を観測しましょう！！

○日時 10月27日(火)

○午後7時30分～午後9時

○会場 水窪文化会館 天体観測ドーム

※小学生以下の方は保護者同伴をお願いします。



文化会館ホールステージ無料開放！

○10月の開放日 毎週月曜日(5日、19日、26日)※12日は祝日のため休館

○時間 午前9時～午後5時

文化会館にあるピアノの使用、ご自分の楽器を持ち込むこともできます。

音響設備の使用については、事前にご相談ください。

ダンスやバンド練習、発表会のリハーサルなど、あなたのスタジオとして無料で使えるチャンス！！

是非、ご利用ください。



水窪図書館だより



今月のおすすめ本

13 歳からの図解でなるほど地政学

村山 秀太郎/監修

世界一でありたいアメリカ、凍らない港を求めるロシアの歴史、争いが絶えない中東、地図やイラストを使いながら主要国の地理的・経済的条件を抑え、各国の地政学的戦略を解説する。



登山家田部井淳子の物語

安田 アニータ/文

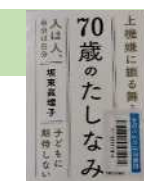
一歩ずつ、一歩ずつ。高く、高く、てっぺんめざして！世界最高峰の山エベレストの頂点に女性としてはじめて立った登山家・田部井淳子の伝記絵本。



70 歳のたしなみ

坂東 眞理子/著

人生 100 年時代の 70 代は貴重な黄金時代。「意識して上機嫌に振る舞う」「終活は急ぎすぎない」「子どもに期待してはいけない」など



100 歳「元気生活」のススメ

日野原 重明/著

「93 歳医者」と「100 歳医者嫌い」の意外な共通点とは？みんなが知りたい「元気」で長生きする秘訣を、「75 歳からが人生の晴れ舞台」と語る大先輩が楽しく紹介。

死ぬこと、死に方なんて考えない老人の生き様を見よ！



図解でわかる高齢者と終活

的場 隆之/著

高齢者の人生の最終段階における医療、看護、ケアサービス、法的制度、終末期に関する用語をわかりやすくまとめた「終活入門書」。



山と獣

須藤 功/著

宮本常一が所長だった日本観光文化研究所に所属し、全国の村で「あるくみるきく」ことを続けてきた民俗学写真家が、鳥獣害に悩みながらも焼畑で生計を立て、祭りに願いを託した人びとの「ふつうの暮らし」を写真とともに綴る。



読書週間のはじまり

第80回 読書週間 10月27日～11月9日

(『文化の日』を中心に 2 週間)

「読書週間」の源流は、1924 年(大正 13 年)。大量の出版物が消失した、関東大震災からの復興期に、日本図書館協会が全国で読書の鼓吹・図書文化の普及・良書の推薦などを目的として行事を展開しました。のちに「図書館週間」と名づけられたこの行事には出版界も参加し、年中行事として定着しました。しかし、1939 年(昭和 14 年)、戦時下に発令された「一般週間廃止令」により、その幕を閉じることになります。

このような戦前史をもつ「読書週間」は 1947 年(昭和 22 年)終戦の 2 年後、まだ戦火の傷痕がいたるところに残っているとき、「読書の力によって、平和な文化国家を創ろう」と決意をひとつに、出版社、取次会社、書店と公共図書館が力を合わせ、新聞、放送のマスコミ機関も加わって 11 月7日から第 1 回が開催されました。

そのときのイベントの反響は素晴らしく、翌年の第 2 回からは、文化の日を中心にした 2 週間と定められ、この運動は全国に広がっていきました。それから 80 年、「読書週間」は日本の国民的行事として定着し、日本は世界有数の「本を読む国民」の国となりました。